平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年10月28日

上場会社名　株式会社 田谷　　上場取引所　東
コード番号　4679　URL　http://www.taya.co.jp
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 田谷　和正
問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼専務執行役員経営企画推進室長　(氏名) 田代　久士　TEL 03-5772-8411

四半期報告書提出予定日　平成23年11月11日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　有

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	6,227	△0.7	229	383.6	230	470.9	90	―
23年3月期第2四半期	6,272	0.5	47	―	40	―	△63	―

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	17.80	―
23年3月期第2四半期	△12.64	―

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第2四半期	8,658	4,387	50.7	867.57
23年3月期	8,479	4,408	52.0	871.77

(参考) 自己資本　24年3月期第2四半期　4,387百万円　23年3月期　4,408百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	―	0.00	―	22.00	22.00
24年3月期	―	0.00			
24年3月期(予想)			―	22.00	22.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,700	1.1	510	144.1	505	159.1	210	―	41.53

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
② ①以外の会計方針の変更 ： 無
③ 会計上の見積りの変更 ： 無
④ 修正再表示 ： 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	5,100,000 株	23年3月期	5,100,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	42,860 株	23年3月期	42,860 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	5,057,140 株	23年3月期2Q	5,057,140 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きが実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】P.3「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）財政状態に関する定性的情報 …… 2
（３）業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（その他）に関する事項 …… 3
（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要 …… 3
４．四半期財務諸表 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 6
第２四半期累計期間 …… 6
（３）四半期キャッシュ・フロー計算書 …… 7
（４）継続企業の前提に関する注記 …… 8
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する定性的情報

当第２四半期累計期間におけるわが国経済は、先の東日本大震災により停滞していた生産活動は徐々に回復に向かっているものの、原発事故による電力供給問題や風評被害などに加え、欧米の経済不安等に伴う円高・株安の進行により、日本経済の先行きは引き続き不透明な状況となっております。

美容業界におきましても、東日本大震災の影響などにより雇用・所得環境への不安が一層高まり、消費者マインドは自粛ムード・生活防衛意識が更に強まり、経営環境は極めて厳しい状況となっております。

このような状況の下、当社といたしましては、『他喜力』をスローガンに、このような時期だからこそ、美容を通じて多くの方々が“笑顔”になっていただけるように、全社員の技術力・接客能力の向上や、新しいサービスの提供に努め、「お客様に喜んでいただき、選んでいただけるサロン作り」に取り組んでおります。

美容施術では、ヘアカラーの新色として、春の「キャンディーカラー（８色）」、夏の「ＬＯＶＥカラー（８色）」を次々導入し、当社独自のカラーバリエーションを充実させ、また、節電による暑い夏を、“涼しく、キレイに、爽快に”過ごしていただくために「シースルーウェーブ」「パーフェクトトリートメント」などの新しいメニューを追加し、お手入れ簡単でスタイリングがしやすいヘアデザインの提案や、毛根からのケアによる髪の健康を促進するなど、お客様に喜んでいただけるよう努めてまいりました。

商品では、四季に応じたオリジナルヘアケア商品として、夏季限定の「スパークリンググレープフルーツ」「キュラソーオレンジ」の２シリーズ、秋季限定の「オータムマジック」シリーズのシャンプー＆トリートメントを発売いたしました。

店舗につきましては、ＴＡＹＡ心斎橋店を移転のため閉鎖いたしました。これにより当第２四半期会計期間末の店舗数は、美容室146店舗と小売店１店舗であります。

また、従来からの材料使用量の厳正化や人材育成・適正人員配置による生産性の向上、節電や無駄なコストの削減など収益体質の強化を推し進めてまいりました。

以上の結果、当社の第２四半期累計期間の業績は、売上高6,227百万円（前年同期比0.7%減）となり、営業利益229百万円（前年同期比383.6%増）、経常利益230百万円（前年同期比470.9%増）となり、四半期純利益は90百万円（前年同期は四半期純損失63百万円）となりました。

（２）財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第２四半期会計期間末の総資産は8,658百万円となり、前事業年度末と比べて179百万円増加いたしました。

流動資産の残高は2,580百万円となり、前事業年度末と比べて212百万円増加いたしました。固定資産の残高は6,078百万円となり、前事業年度末と比べて32百万円減少いたしました。主な増加は、現金及び預金の増加226百万円、主な減少は、支社、店舗の移転及び減価償却による建物の純減65百万円であります。

当第２四半期会計期間末の負債総額は4,271百万円となり、前事業年度末と比べて200百万円増加いたしました。

流動負債の残高は2,387百万円となり、前事業年度末と比べて211百万円増加いたしました。固定負債の残高は1,883百万円となり、前事業年度末と比べて11百万円減少いたしました。主な増加は、長短借入金の純増216百万円、主な減少は、社債の減少63百万円、未払法人税等の減少31百万円であります。

当第２四半期会計期間末の純資産は4,387百万円となり、前事業年度末と比べて21百万円減少いたしました。以上の結果、自己資本比率は前事業年度末52.0%から50.7%に減少いたしました。

②キャッシュ・フローの状況

当第２四半期累計期間における現金及び現金同等物は(以下資金という。)前事業年度末に比べ214百万円増加し、1,491百万円となりました。

当第２四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第２四半期累計期間において、営業活動の結果獲得した資金は294百万円(前年同四半期は237百万円の獲得)となりました。

これは主に、税引前四半期純利益212百万円、減価償却費132百万円、仕入債務の増加36百万円があったことに対し、法人税等の支払152百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第２四半期累計期間において、投資活動の結果使用した資金は91百万円(前年同四半期は97百万円の使用)となりました。

これは主に、支社、店舗の移転にともなう有形固定資産の取得60百万円、敷金及び保証金の差入17百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第２四半期累計期間において、財務活動の結果獲得した資金は11百万円(前年同四半期は11百万円の使用)となりました。

これは主に、長短借入金の純増216百万円があったことに対し、配当金の支払110百万円、社債の償還63百万円があったことよるものです。

（３）業績予想に関する定性的情報

当第2四半期累計期間の業績を踏まえ、個人消費の先行き懸念や電力不足問題を鑑み、平成23年10月21日に「業績予想の修正に関するお知らせ」を発表いたしました。これによる通期の業績見通しは、売上高12,700百万円（前事業年度比1.1％増）、営業利益510百万円（前事業年度比144.1％増）、経常利益505百万円（前事業年度比159.1％増）、当期純利益210百万円（前事業年度は当期純損失37百万円）となる見込みであります。

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって、これら予想数値と異なる可能性があります。

２．サマリー情報（その他）に関する事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はございません。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はございません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はございません。

４．四半期財務諸表

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期会計期間 （平成23年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,521,609	1,747,739
売掛金	472,748	452,295
商品	48,941	51,022
美容材料	30,832	38,703
その他	295,140	291,580
貸倒引当金	△915	△915
流動資産合計	2,368,356	2,580,426
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,848,395	1,782,436
土地	1,377,828	1,377,828
その他（純額）	74,409	66,579
有形固定資産合計	3,300,634	3,226,845
無形固定資産	41,309	65,785
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,152,514	2,166,416
その他	633,082	634,462
貸倒引当金	△16,735	△15,235
投資その他の資産合計	2,768,860	2,785,644
固定資産合計	6,110,804	6,078,274
資産合計	8,479,161	8,658,701

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年３月31日)	当第２四半期会計期間 (平成23年９月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	399,506	430,430
短期借入金	106,900	156,000
1年内返済予定の長期借入金	341,579	428,567
1年内償還予定の社債	126,000	126,000
未払法人税等	186,763	155,507
賞与引当金	218,810	216,204
資産除去債務	―	4,147
その他	796,039	870,586
流動負債合計	2,175,598	2,387,442
固定負債		
社債	278,000	215,000
長期借入金	940,423	1,020,665
退職給付引当金	361,375	360,685
資産除去債務	189,132	181,912
その他	125,977	105,594
固定負債合計	1,894,908	1,883,857
負債合計	4,070,506	4,271,300
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,480,180	1,480,180
資本剰余金	1,702,245	1,702,245
利益剰余金	1,344,861	1,323,608
自己株式	△118,632	△118,632
株主資本合計	4,408,654	4,387,401
純資産合計	4,408,654	4,387,401
負債純資産合計	8,479,161	8,658,701

（２）四半期損益計算書
（第２四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
売上高	6,272,278	6,227,489
売上原価	5,479,226	5,257,720
売上総利益	793,052	969,769
販売費及び一般管理費	745,604	740,324
営業利益	47,447	229,444
営業外収益		
受取利息	1,298	853
不動産賃貸料	5,528	5,421
その他	14,915	16,045
営業外収益合計	21,743	22,321
営業外費用		
支払利息	17,501	15,140
不動産賃貸費用	4,526	3,678
社債発行費	6,024	－
その他	840	2,900
営業外費用合計	28,893	21,719
経常利益	40,297	230,046
特別利益		
貸倒引当金戻入額	209	－
特別利益合計	209	－
特別損失		
固定資産除却損	2,552	－
減損損失	－	17,617
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	85,671	－
特別損失合計	88,223	17,617
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失（△）	△47,716	212,428
法人税、住民税及び事業税	36,229	121,019
法人税等調整額	△20,042	1,405
法人税等合計	16,187	122,424
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△63,904	90,003

（３）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失（△）	△47,716	212,428
減価償却費	138,839	132,955
減損損失	－	17,617
賞与引当金の増減額（△は減少）	△7,843	△2,605
退職給付引当金の増減額（△は減少）	6,461	△689
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△209	150
受取利息	△1,298	△853
支払利息	17,501	15,140
固定資産除却損	2,552	－
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	85,671	－
売上債権の増減額（△は増加）	85,693	23,590
たな卸資産の増減額（△は増加）	△882	△3,970
仕入債務の増減額（△は減少）	△12,829	36,867
その他	6,770	38,035
小計	272,708	468,665
利息の受取額	1,164	795
利息の支払額	△17,575	△16,338
退店補償金の受取額	10,991	－
災害損失の支払額	－	△6,391
法人税等の支払額	△29,993	△152,430
営業活動によるキャッシュ・フロー	237,295	294,300
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△302,738	△213,051
定期預金の払戻による収入	288,849	201,083
有形固定資産の取得による支出	△77,381	△60,229
敷金及び保証金の差入による支出	△4,269	△17,283
敷金及び保証金の回収による収入	4,558	2,045
その他	△6,628	△3,940
投資活動によるキャッシュ・フロー	△97,610	△91,376
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	249,000	368,000
短期借入金の返済による支出	△271,810	△318,900
長期借入れによる収入	267,000	364,000
長期借入金の返済による支出	△383,440	△196,770
長期未払金の返済による支出	△16,290	△16,720
リース債務の返済による支出	△12,386	△14,530
社債の発行による収入	300,000	－
社債の償還による支出	△33,000	△63,000
配当金の支払額	△110,379	△110,692
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,307	11,386
現金及び現金同等物に係る換算差額	△197	△149
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	128,180	214,161
現金及び現金同等物の期首残高	1,260,076	1,277,492
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,388,256	1,491,654

（４）継続企業の前提に関する注記

該当事項はございません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はございません。

(開示の省略)

セグメント情報、その他注記事項、補足情報等は、第２四半期決算短信における開示の必要性が大きくないと考えられるため、開示を省略しております。